

ピッチングマシン寄贈

SDGs 青少年の健全育成むけ 私募債

白石倉庫

白石倉庫(太宰榮一社長、宮城県白石市)はしんきんSDGs(持続可能な開発目標)私募債「ちいきのミライ」を発行し、引受先の仙南信用金庫(渡邊大助理事長)と財務代理人の信金中央金庫(柴田弘之理事長)と共同で、大河原産業高校野球部にピッチングマシンを寄贈した。3月27日に同校で寄贈品贈呈式を開催し、太宰社長から伊藤直美校長に目録が手渡された。

(稲井日菜子)

SDGs私募債は、企業(白石倉庫)が私募債を発行する際に、引受先(仙南信用金庫)、財務代理人(信金中央金庫)が手数料の一部を割り引き、割引額以上相当をSDGs達成のための団体などに寄贈するというもの。仙南信用金庫は、

SDGsの取り組みとして地元の青少年の健全育成に重きを置いており、今回の寄贈もこの一環となる。

同校は、少子化に伴う柴田農林高校と大河原商業高校の再編統合により、2023年4月に開校した。野球部員は3月時点で1年生



記念写真に納まる白石倉庫の太宰社長(前列中央)ら

1名のみで、隣接する柴田農林高校2、3年生の野球部だが、『日本一の下剋上』を目指して頑張っている。

部と一緒に活動している。今回の寄贈を受け、大河原産業高校野球部員の佐藤把紅さんは「ピッチングマシンを頂き、ありがとうございます。現在は規模が小さい

きたい」と意気込みを語った。太宰氏は「今回の寄贈は、大河原産業高校OGの社員が、全国に影響を与える活躍をしたことがきっかけ。彼女のように地域に貢献する人材の育成を支援したい」と思い、寄贈に至った。新しい伝統をつくっていった。また、贈呈式の後には、仙台市で活動するプロバスケットボールチーム「仙台89ERS」のオフィシャルスポンサーを務める白石倉庫が、大河原産業高校男子・女子バスケットボール部にボールを5個ずつ寄贈した。